福井・田名（たな）遺跡

1 所在地　福井県三方郡三方町田名

2 調査期間　一九八六年（昭61）一〇月～一九八七年六月

3 発掘機関　三方町教育委員会

4 調査担当者　田辺常博

5 遺跡の種類　集落跡

6 遺跡の年代　縄文時代後期、弥生時代後期～平安時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

田名遺跡は、三方町の東部地区の鰯（はす）川流域平野部のほぼ中央で標高約五mの水田地帯に位置している。一九八六年に当遺跡周辺において、県営圃場整備事業が計画されていたために、三方町教育委員会が事前調査を実施した。遺跡の背後の裏山尾根には、円墳、方墳が一六基分布する古墳群があり、また周辺にも縄文時代から平安時代の遺跡が点在している。調査の結果、

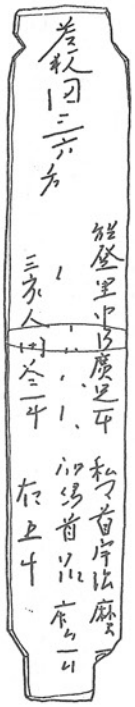
（西　津）

古墳時代の溝状の落ち込み、及び奈良・平安時代の高床状建物などの遺構が検出された。出土遺物には、六世紀前半及び八世紀から一〇世紀代の祭祀遺物が多い。前者では、土師器、須恵器の他に手捏土器、勾玉、臼玉などの滑石製模造品など、後者では、斎串、刀形などの木製品がある。奈良・平安時代の須恵器には、「西家」「山本」などと記された墨書土器が五点確認され、また、神功開宝が二点出土している。木簡は、かつて溝であったと思われる地点より多数の土師器、須恵器片や木製品と共に三点出土した（うち二点は釈読不能）。付近には、明治初年の地籍図から条里遺構が確認されるところがあり、また、今回の調査で高床状建物や木簡が出土したことにより、官衙跡の可能性も考えられる。

8 木簡の釈文・内容

(1)

「〈
若狭国三方郡　能登里中臣廣足一斗　私マ首宇治麻呂一□〈
□□□□　□□□首□麻呂一斗
三家人□□一斗　右五斗　227×38×7　031」

木簡の解読については、奈良国立文化財研究所の舘野和己、寺崎保広両氏のご指導をいただいた。

（田辺常博）